

2017年5月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 5月の景気判断は、「一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している」としました。前回4月の判断から変わっていません。
- 個人消費は、大型店の売上動向は弱含み横ばいの動きである一方、自動車の売行きは堅調です。観光は依然弱めではありますが、一部に持ち直しの動きもみられています。この間、公共投資は増加しており、住宅投資は引き続き緩やかに持ち直しています。雇用は改善傾向が続いています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、4月は前年比▲0.2%と小幅ではありますが、前年実績を下回りました。これで6か月連続のマイナスです。弱めの基調からなかなか脱することができない状況が続いています。
- 4月の新車登録台数は、前年比+11.4%とかなり増加しました。当月は、これまでずっとプラスで推移してきた軽自動車以外に加えて、軽自動車も大幅に増加したことが特筆されます。4月の軽自動車は前年比+12.8%と2014年12月以来28か月振りの2ケタの伸びを記録しました。軽自動車以外は同+10.8%とこれも2ケタの伸びでした。こちらは9か月連続の増加です。
- 以上からみて、個人消費は、全体としてほぼ横ばい圏内の動きと考えています。

■観光の動向

- 観光は、本格シーズン入りに向けて持ち直しの動きもみられますが、まだまだ弱めの指標もみられます。
- 4月の道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数は、前年比▲0.7%

と小幅ですが、再びマイナスとなりました。もっとも、大きく足を引っ張っているのは旭川空港の国際線です。4月の前年比は▲90.7%でした。一方、国内線は、旭川空港が同+12.3%、稚内空港が同▲2.4%、女満別空港が同+0.7%、紋別空港が同+26.2%で、4空港全体では同+7.1%でした。国内線はビジネス客も多いのですが、観光客もツアー客を中心に相応に伸びているものと思われます。

- 4月のホテル・旅館宿泊者数は、前年比▲5.4%でした。ここ数か月はプラスとマイナスを行き来しています。4月は層雲峡や美瑛・富良野など上川エリアは比較的良かったようですが、知床などオホーツク方面は苦戦したようです。知床では一部ホテルが工事のため一時休館したことも響いたようです。一方、旭川市内ホテルの稼働率は56.4%でした。
- 各地観光は、旭山動物園が増加（前年比+17.9%）したほか、博物館網走監獄も増加（同+15.0%）しましたが、ウトロが大幅マイナス（同▲32.3%）となったほか、層雲峡地区（同▲1.5%）、利尻・礼文フェリー（同▲4.3%）も小幅マイナスでした。

■公共投資の動向

- 4月の上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局における公共工事請負額は、前年比+3.8%と増加しました。季節的にボリュームもかなり出ています。内容的には災害復旧工事が多いようです。建設業界では、人手不足と相まって、各社とも繁忙となっているようです。

■住宅着工

- 3月の新設住宅着工戸数は、前年比+9.0%と増加しました。持家（前年比+26.7%）は引続き2ケタの伸びですが、貸家（同▲29.2%）は前月に続き大幅減少です。住宅投資は、緩和的な金融環境の下で、引続き緩やかに持ち直しているとみています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。3月の有

効求人倍率は、旭川が0.97倍と1倍を下回ったほか、前年水準も下回りましたが、引続き高水準です。また、稚内（1.08倍）、北見（1.18倍）、網走（1.17倍）も高水準が続いています。3月の新規求人数は、稚内（前年比▲10.9%）が前年を下回りましたが、旭川（同+2.4%）、北見（同+8.7%）、網走（同+15.2%）が前年を上回りましたので、全体では前年比+3.8%と前年を上回りました。

■今後のポイント

- 公共工事の増加が当地建設業界の仕事を繁忙にさせているほか、金融緩和の効果もあって、住宅投資や民間の非居住用の建築物も増加傾向にあり、これらが当地経済にとって明るい材料になっています。また、自動車の売れ行きが堅調です。全体としてはよい方向に向かっていると思います。観光も4月は閑散期でしたが、5月のGWは天候や日並びがよかったこともあって好調だったという声を聞きます。旭川空港の国際線が減少していることが懸念材料ですが、観光も少しずつ良い方向に向かっているように思われます。
- 先月、日銀では、わが国全体の景気判断をこれまでの「緩やかに回復している」から「緩やかな拡大に転じつつある」に上方修正しました。また、札幌支店による北海道全体の景気判断も、「緩やかに回復している」から「回復している」にワンランク上げました。わが国全体の景気判断上げは、主として海外経済の回復により製造業の生産と輸出が好転してきたことによるものです。また、北海道全体の景気判断上げは、同様に輸出・生産が好転していることに加え、公共事業が増加していること、設備投資が増加に転じていることによるものです。この点、道北経済は、輸出依存度の高い製造業が少ないこともあって、足許のわが国全体や全道の動きとは軌を一にしていません。このため、景気判断としては変更なしが続いていますが、一方で、昨年わが国全体が新興国経済のスローダウンによりやや足踏み状態となった際に、さほどの影響がみられなかったのも事実です。
- 個人消費と設備投資に動意が見られないことが、道北地域の景気回復が遅れ

気味となっている大きな要因です。幸い、現在の道北企業の収益は比較的良
好です。こうした中で、企業が人手不足という労働市場環境も考慮しつつ賃
上げに動き、これにより道北地域の所得が向上し、消費支出の拡大につな
がるという好循環が生まれることを期待したいと思います。あわせて、緩和的
な金融環境の下で、企業が将来の不安感を払拭して設備投資に積極的になる
ことを期待したいと思います。

以 上

景気判断の推移

公表月	日本銀行旭川事務所		日本銀行札幌支店		(参考)北海道財務局旭川財務事務所	(参考)北海道財務局北見出張所
	前环比	道北(上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内)	前环比	全道	道北(上川・留萌・宗谷総合振興局管内)	オホーツク総合振興局管内
2014年9月	→	天候要因等による振れを伴いつつ、基調的には着実に持ち直している	→	緩やかに回復している	持ち直している	消費税率引上げに伴う、駆け込み需要の反動が弱まってきており、緩やかに持ち直している
10月	→	一部に緩慢さを残しつつも、基調的には着実に持ち直している	→	↓		
11月	↓	個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している	→			
12月	→	↓	↓	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している	↓	
2015年1月	→		→			
2月	→	↓	→	↓		緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられる
3月	→		→			
4月	→	↓	→	↓		一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる
5月	→		→			
6月	→	↓	↑	緩やかに回復している	↓	
7月	→		→			
8月	公表なし					
9月	→	↓	→	↓		
10月	→		→			
11月	→	↓	→	↓		
12月	→		→			
2016年1月	→	↓	→	↓		
2月	→		→			
3月	→	↓	→	↓		一部に弱さが残るものの、緩やかに持ち直している
4月	→		→			
5月	→	↓	→	↓		
6月	→		→			
7月	→	↓	→	↓		
8月	公表なし					
9月	→	↓	→	↓		
10月	→		→			
11月	→	↓	→	↓		
12月	→		一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している			
2017年1月	→	↓	→	↓		
2月	→		→			
3月	→	↓	→	↓		
4月	→		↑			
5月	→	↓	→	↓		



